

【令和4年度全国学力・学習状況調査】

- 小学校(理)、中学校(国・数・理)は全国平均と同等、小学校(国・算)は全国平均を下回る。
- 「思考・判断・表現」に関する問題で、小学校の正答率が改善傾向である。
- 質問紙調査で、夢や目標等に対する肯定的な回答が増加している。

【令和4年度とっとり学力・学習状況調査】

- 概ね各学年で学力レベルを順調に伸ばしている。
- 非認知能力・学習方略において、学力を下支えする力を伸ばしている。

〈参考：全国学力・学習状況調査、とっとり学力・学習状況調査の違い〉

【全国学力・学習状況調査】

- ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学習指導要領の理解の状況を計るもの。

【とっとり学力・学習状況調査】

- ・児童生徒一人一人の学力の伸びをみるもの。
- ・学力を支える非認知能力・学習方略の状況を把握するもの。

⇒鳥取県では、「とっとり学力・学習状況調査」と「全国学力・学習状況調査」を児童生徒の学力を伸ばすための両輪として活用し、客観的データと教員の経験とを合わせ、一人一人の子どもに寄り添った指導と支援を推進しているところ。

1 全国学力・学習状況調査から見える成果と課題

(1) 調査結果

○小学校理科及び中学校国語・数学・理科は全国平均と差はみられなかった。

○小学校国語・算数は全国平均を下回った。

(平均正答率[%])

	国語		算数・数学		理科	
	本県(公立)	全国(公立)	本県(公立)	全国(公立)	本県(公立)	全国(公立)
小6	64 (-1.6)	65.6	62 (-1.2)	63.2	63 (-0.3)	63.3
中3	68 (-1.0)	69.0	51 (-0.4)	51.4	49 (-0.3)	49.3

※本調査において、本県としては±1%以内は「全国平均と差はみられない」として取り扱っている。

○「思考・判断・表現」を問う問題・記述問題で、小学校の正答率が改善傾向にある。

学校・教科	令和3年度	令和4年度	昨年度との差
小学校国語	-4.2	-2.0	+ 2.2 ポイント
小学校算数	-2.1	-1.6	+ 0.5 ポイント

※小学校国語・算数のみ前年度(前回)との比較可能

○記述問題の全国平均との差が縮まっている。

学校・教科	令和3年度	令和4年度	昨年度との差
小学校国語	-2.0	-0.5	+ 1.5 ポイント
小学校算数	-1.9	-0.4	+ 1.5 ポイント
中学校国語	-2.4	-1.6	+ 0.8 ポイント
中学校数学	-2.2	-1.4	+ 0.8 ポイント

(2) 成果と課題

○小学校国語・算数は全国平均を下回ったものの、「中学校国語・数学などについては改善の兆しが見えること」質問紙調査において、これまで課題としてきた「夢や目標等に対する肯定的な回答が増加した」ことがわかった。

○授業改善の方向性を重点的に示してきた「思考・判断・表現」を問う問題・記述問題でも、小学校の正答率が改善傾向にあるという成果がみられた。

○小学校国語の正答率が低く、授業づくりに課題があることがわかった。

2 とっとり学力・学習状況調査から見える成果と課題

(1) 調査結果

①小学校

- 算数は、国語と比較すると伸びが大きく、どの学年も学力レベル[※]を2ずつ伸ばしている。このことから、算数訪問等の取組と相まって、学校の授業改善の成果が表れていると考えられる。

(※学力レベル：とっとり学力・学習状況調査では、様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見て、「学力レベル」を判断しています。そのため、全ての問題に難易度を設定しています。)

- 国語は、5年生を除き学力レベルを1～2伸ばしているが、学力を伸ばした児童の割合と伸びが小さく、国語の力を十分には伸ばし切れていない。
- 4年生の学力レベルは例年に比べ低い。

②中学校

- 数学は、1・2年生ともに昨年度からの伸びが大きく、また1年生は昨年度に比べ学力レベルが高い。
- 国語は、概ね順調に学力レベルを伸ばしている。
- 学年が進むにつれて、自己効力感が下がっている。

【現学年別学力レベルの推移】

学年	国語			算数・数学		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
現小4	-	-	5-A	-	-	5-C
現小5	-	6-A	6-A(0)	-	5-B	6-C(+2)
現小6	6-C	6-A(+2)	7-B(+2)	5-C	6-C(+3)	6-A(+2)
現中1	7-C	7-B(+1)	7-A(+1)	5-A	7-C(+4)	7-A(+2)
現中2	7-B	8-C(+2)	8-B(+1)	7-C	7-B(+1)	8-C(+2)

() 内は、前年度からの学力レベルの伸び

【各学年の年度別学力レベル】

学年	国語			算数・数学		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
小4	6-C	6-A	5-A	5-C	5-B	5-C
小5	7-C	6-A	6-A	5-A	6-C	6-C
小6	7-B	7-B	7-B	7-C	7-C	6-A
中1	-	8-C	7-A	-	7-B	7-A
中2	-	-	8-B	-	-	8-C

(2) 成果と課題

- とっとり学力・学習状況調査実施校のほぼすべてが令和4年度から実施2年目以上になったことから、学力の伸びだけでなく、目標に向けて粘り強くやり抜く力のような非認知能力や学習の仕方を工夫する力のような学習方略の変化が数値として測定できるようになり、鳥取県内の児童生徒は「全般的に各学年で学力や非認知能力・学習方略を順調に伸ばしている」ことがわかった。
- 小学校国語は、学力の伸びについて学年による差が大きいことが明らかになり、小学校国語の授業づくりに課題があることがわかった。

3 今後の取組について

今後、今回の調査結果の分析を更に進めるとともに、とっとり学力・学習状況調査の実施学年の拡充を含め、来年度の事業計画を立て、良い実践を広く周知するとともに、支援が必要な学校に対して適切に対応できるように検討する。

区分	内容
調査結果を市町村教育委員会と共有し、連携した取組	<p>○教育長による市町村長訪問の実施 県教育長が市町村長を訪問し、全国学力・学習状況調査からわかる成果と課題について共有するとともに、県、市町村が協力して学力向上に取り組むことについて共通理解を図る。</p> <p>○とっとり学力・学習状況調査結果を基にした市町村教育委員会との連携 調査結果を市町村教育委員会と共有し、現学年の教科ごとの学力の伸びや非認知能力・学習方略について検討し、今後支援が必要な学校を明確にするとともに、支援が必要な学校について短期的で具体的な支援策を講じるよう市町村教育委員会と連携する。</p>
個の伸びに着目した本県独自の調査の活用	<p>○とっとり学力・学習状況調査の実施（令和5年度は中学3年生まで実施予定） 児童生徒一人一人の学力の伸びを測る指標となる県独自の「とっとり学力・学習状況調査」を継続して実施する。本調査を起点とし、根拠を基にした事業を展開する。</p> <p>①管理職を対象とした学力向上に係る学校マネジメント研修会を実施 ②モデル地域での客観的な根拠を重視した教育政策（EBPM）の推進 （※EBPM：エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案） ③調査結果活用協力実践校を配置し、モデル的な活用状況について発信 ④とっとり学力・学習状況調査報告書の作成</p> <p>○学習状況を経年で把握する分析シートの活用 学力の伸びや非認知能力、学習方略の変化を蓄積し、グラフ等で表した分析シートを作成できるシステムを導入した。この分析シートを基に、データを活用して個別最適な学習等、個に寄り添った教育を推進するとともに、家庭との連携を図る。</p>
「今、求められる学力」（活用力・応用力）を育成する授業づくりの推進	<p>○全国学力・学習状況調査の説明動画の配信 調査から把握した課題を解決するために作成した「研修パッケージ」で示した「知識を関連付けて、深く理解する力」等の「今、求められる学力」を切り口（柱）にして、本年度の出題傾向や鳥取県の結果等について触れ、授業改善の方向性を示す。 <中・英>平成31年度の出題傾向を基に授業改善等について示す。</p> <p>○市町村教育委員会と連携した集中的な支援 調査問題を單元ごとに整理した活用問題（B-PLAN）や小学校算数単元到達度評価問題を希望する学校に毎月配信。県教育委員会と市町村教育委員会が学校を支援し、指導力向上を図る。</p> <p>○算数の授業づくり支援の実施 令和元年度から、県内全小学校を県指導主事が訪問し算数の授業づくりに指導助言を行ってきた。タイムマネジメントを意識することやゴールイメージを明確にした授業づくりについて各学校で理解が進んだ。また、「算数が好きである」と肯定的に回答する児童の割合も増加した。 令和5年度からは、市町村教育委員会と連携し、県指導主事が必要に応じて学校を訪問し支援する体制を構築するとともに、県教育センターと連携し、初任者への指導等を通して算数訪問で得た知見を継続して学校に発信していく予定。</p> <p>○子どもが伸びる授業づくりプロジェクト（小学校国語）の実施 各地区に国語科重点校を指定し、元学力調査官を招聘した授業研究会を全県対象として開催する等、鳥取県内の小学校国語の授業づくりの拠点校として重点的に支援を行うことで、思考力・判断力・表現力等を育成する小学校国語の授業づくりを推進していく予定。</p>

<p>教師の指導力・能力を高める研修の充実</p>	<p>○各種研修会の実施</p> <p>学力調査官等、全国学調に係る専門家や文部科学省の教科専門官等を招聘し、授業研究会や各種研修会を実施する。</p> <p>①大学教授を招聘した国語の授業づくり研修会を開催し、授業改善に向けて情報発信</p> <p>②県指導主事による授業づくり研修会(オンライン)の開催 (小学校国語、中学校数学、小学校外国語活動・外国語)</p> <p>③中学校定期考査研修会(国語・数学・英語)の実施</p> <p>④教育研究団体支援(中学校国語・数学・英語)</p> <p>⑤小学校算数の教科調査官等を招聘した研修会の実施</p> <p>⑥秋田県の教育研究所長を招聘した研修会の実施</p>
<p>英語教育の充実</p>	<p>○英語の外部試験結果を生かした取組</p> <p>(令和5年度から中学校全学年での実施を検討中 ※中学3年は4技能型試験実施を検討中)</p> <p>県内全中学校で実施している英語の外部試験結果を市町村教育委員会と共有し、生徒の英語力の状況を分析するとともに、学校に対して課題に沿った支援を行う。</p> <p>後期も「出かける学びの改革推進室(英語)」等を通じて授業改善への支援を行うとともに、「話す」ことを含めた4技能型の外部試験の導入の検討を含め、継続した支援を行っていく予定。</p>

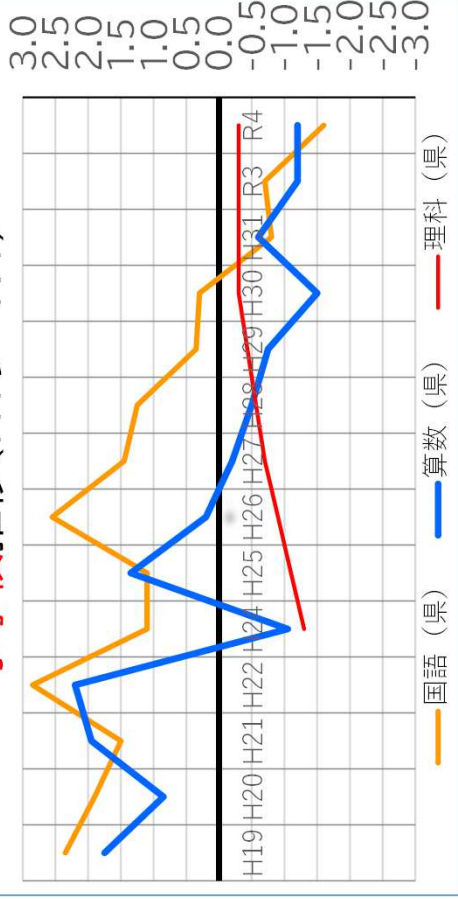
鳥取県の結果概要

<各教科>

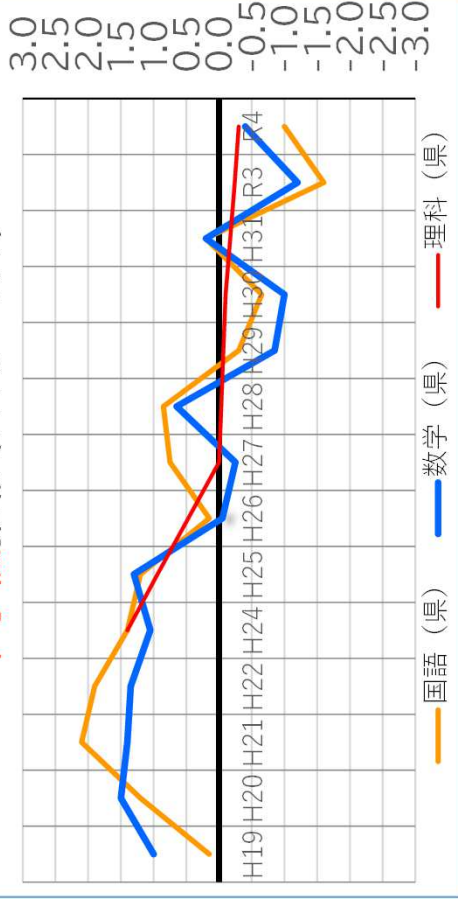
- ・小学校理科及び中学校国語・数学・理科は全国平均と差はみられなかった。
- ・小学校国語・算数は全国平均を下回った。

	国語		算数・数学		理科	
	本県 (公立)	全国	本県	全国	本県	全国
小学6年	64 (-1.6)	65.6	62 (-1.2)	63.2	63 (-0.3)	63.3
中学3年	68 (-1.0)	69.0	51 (-0.4)	51.4	49 (-0.3)	49.3

小学校推移(H19~R4)



中学校推移(H19~R4)



記述問題の正答率 (全国平均との差)

学校・教科	令和3年度	令和4年度	昨年度との差
小学校国語	-2.0	-0.5	+1.5
小学校算数	-1.9	-0.4	+1.5
中学校国語	-2.4	-1.6	+0.8
中学校数学	-2.2	-1.4	+0.8

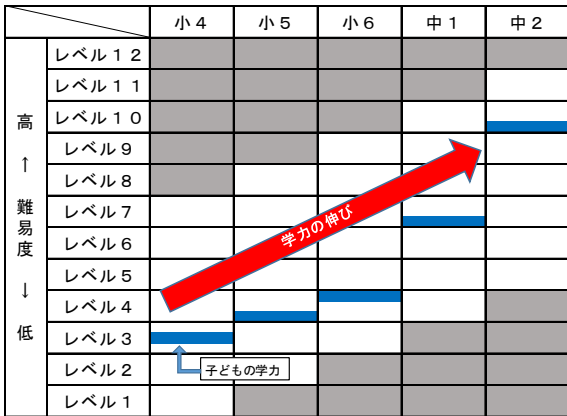
「思考・判断・表現」を問う問題の正答率 (全国平均との差)

学校・教科	令和3年度	令和4年度	昨年度との差
小学校国語	-4.2	-2.0	+2.2
小学校算数	-2.1	-1.6	+0.5

鳥取県の課題であった記述問題や思考力・判断力・表現力等を問う問題について改善が見られた。今後も、「今、求められる学力」を付けるための授業改善を推進していく

とっとり学力・学習状況調査の特長

問題ごとに難易度を設定した学力調査を継続して実施することにより、子ども一人一人の学力の伸びを把握し、指導に生かすことができます。



◇全部で12のレベルがあります。(各学年で測定可能なレベルは7レベル)
◇1つのレベルをさらに3層(A~C)に分けています。

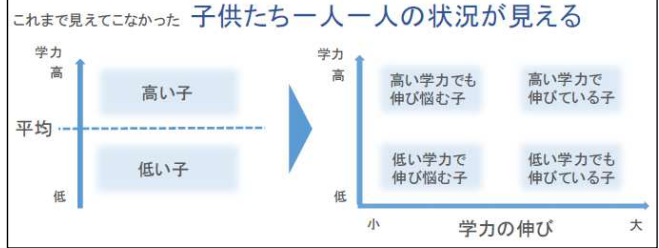
【埼玉県と協定を結び、共同実施を予定】

- ◇埼玉県は平成27年度から開始(毎年約30万人に調査)
- ◇一人一人の学力の伸び(変化)を継続して把握することのできる自治体初の調査
- ◇埼玉県は4年連続で全国学力調査の結果が伸びている
- ◇平成31年度から福島県と共同実施を開始
- ◇平成30年度プラチナ大賞で次世代育成賞を受賞
- ◇中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(R1.10.29開催)において、本調査について報告

【項目反応理論 (IRT)】

- 出題するすべての問題に同一尺度で難易度を設定
- ◇異なる調査間での学力の比較が可能
- ◇PISAやTOEFLと同様の調査手法

学年ごとの難易度の設定範囲



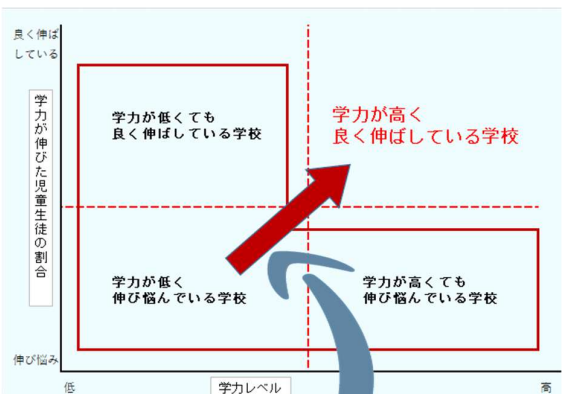
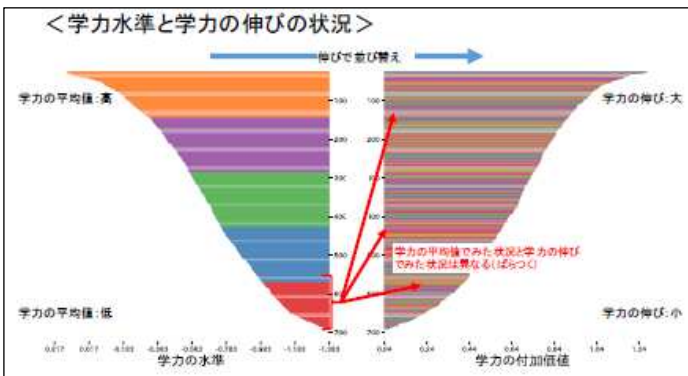
- 伸び悩む子どもには、つまづきを早期に発見し、支援が可能
- 伸びた子どもには、頑張りを認め、一層やる気を引き出したり、より高いレベルへの挑戦を促すための支援が可能

本県のスモールスケールを強みとした、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実



とっとり学力・学習状況調査により市町村教委と連携して学校を支援

<学力水準と学力の伸びの状況>



**学力が高い学校が学力を大きく伸ばしているとは限らない
(学力が低い学校が、学力を伸ばしていない学校とは限らない)**

学力の伸びの状況



学校の実情に応じた重点的な支援

- 管理職の効果的なマネジメントの推進
- 教員の授業力向上、授業改善の推進

- 効果的な指導を実施している教員が多い学校
- 教科や学力層を問わず学力を伸ばしている学校

市町村の枠を超えて効果的な取組を共有する仕組みづくり



令和4年11月18日
小中学校課学びの改革推進室

1 ねらい

「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という従来の学力調査の視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」「学力を支える非認知能力・学習方略が身に付いているか」という新たな視点を加えることで市町村教育委員会と連携・協力しながら、鳥取の子どもたち一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 調査概要（令和4年度）

（1）教科に関する調査

①教科 小学校・義務教育学校第4・5・6学年 国語、算数

中学校第1・2学年、義務教育学校第7・8学年 国語、数学

②出題範囲 学習指導要領に示された内容のうち各学年の前学年までの内容

（2）質問紙調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

（3）実施日 令和4年5月9日（月）から18日（水）までの期間で、市町村（学校組合）教育委員会・学校が任意に実施日を選択する。

3 調査の特徴

○児童生徒一人一人の学力の伸びを把握

毎年の学力調査の結果を見比べることによって、児童生徒一人一人の1年間の学習の積み重ねを「学力の伸び」として見ることができる。

○非認知能力・学習方略の把握

質問紙調査（アンケート）の結果から、目標に向けて粘り強くやり抜く力（非認知能力）や、ルールやマナーを守る意識、計画的に学習を進めるスキル（学習方略）などがどれだけ身に付いているのかが見える。これらの力は、学力と強く関係している。

○PDCAサイクルの確立と学校マネジメントの活用

調査の結果から、学力を伸ばしている効果的な取組を把握するなど校内研究等の効果検証が可能となり、授業改善に向けたPDCAサイクルを回すことができる。さらに、管理職の学校マネジメントを推進するための資料として活用することができる。

4 活用方法（例）

・個に応じた教育の推進

各学校で児童生徒の学力の伸びや学習状況を把握することにより、子どもたち一人一人の成長を支え、確実に伸ばすために必要な教育方法も実践する。

・効果的な取組に把握と拡大

学校内外で、児童生徒の学力の伸びに効果のあった取組を把握し、全県に周知を図り共有することで、効果的な教育活動の拡大を図る

・校内研究での活用

校内研究テーマについて調査結果を分析することで根拠を基に設定し、課題に対して適切な研究や研修を行う。なお、校内研究の成果資料として調査結果を設定し、効果について検証することで授業改善のPDCAサイクルを構築する

※指標となるデータ 非認知能力・学習方略 伸ばした児童生徒の割合と学力レベル

・小中連携の推進

当調査を小・中・義務教育学校で実施することで、小学校から中学校の学年ごとの児童生徒の学力の伸びを把握できる。この調査結果を指標として、課題を共有し課題解決に向けて中学校区としての取組を行う。

・調査の特徴を生かした児童生徒の理解

全国学力・学習状況調査は、学習指導要領で求めている力を付けているかを見る重要な指標であることから、とっとり学力・学習状況調査で分かる学力の伸びを合わせて分析することで、「正答率が高いが伸びが小さい児童生徒」や「正答率は低い伸びが大きい児童生徒」を把握でき、より明確に学習状況を把握することで、適切な指導や声かけを行う。

【目標】 鳥取県全ての教員の指導力向上を図る
 ◆子どもたち一人一人の関心意欲の向上と確かな学力の定着
 ◆子どもたちが「わかった」「できた」を実感できる授業づくり

鳥取県のすべての子どもたちの学力向上

I 管理職のリーダーシップによる学力向上の取組の推進

- ◇指導主事及び管理主事等による学校訪問の充実
- ◇管理職を対象とした学校マネジメント研修の実施 **【R4拡充】**

II 教員の意識改革、授業改善の推進

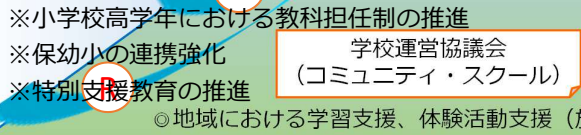
- ◇とっとり学力・学習状況調査の実施 **【R4拡充】**
 - ・調査結果の分析と活用（好事例の周知と学校マネジメントでの活用促進）
 - ・学習状況を経年で把握できる個人カルテ作成システムの構築 **【R4新規】**
- ◇全国学力・学習状況調査を活用した授業づくりの推進
 - ・単元到達度評価問題を全小・義務教育学校に配信
 - ・問題集（B-PLAN）を希望する学校で実施
 - ・授業改善の方向性を示す研修パッケージの作成・活用 **【R4新規】**
- ◇授業改善の推進に向けた支援
 - ・算数訪問の継続ととどりの授業改革 **【10の視点】** 重点項目の徹底
 - ・学力向上推進校へのスーパーバイザー派遣
 - ・学力向上に関する研修会 **【R4拡充】**
 - ・ICTを活用した授業改善の推進
 - ・英語教育推進事業等を活用した授業改善
 - ・中学校定期考査改善研修会 **【R4新規】**

III 教員の同僚性の構築 若手教員の育成

- ◇エキスパート教員による指導技術の普及
- ◇教員の同僚性の構築と人材育成
- ◇若手教員の育成
 - ・若手教員を県外の先進地へ派遣
 - ・とっとりメンター方式の見直し

IV 県教育委員会の指導体制の充実 市町村教育委員会等との連携強化

- ◇鳥取県・市町村学力向上推進会議の設置 **【R4新規】**
- ◇30人学級導入による個に応じた指導の一層の充実
- ◇「学力向上推進プロジェクトチーム」の設置
- ◇教育委員会の指導主事の学校訪問の体制強化
- ◇市町村教育委員会の指導主事対象の研修会の充実
- ◇教育データの活用検証事業の実施（モデル地域） **【R4新規】**



令和4年度 鳥取県学力向上 戦略図

2本の柱で、児童生徒に「力をつける」先生を育てる

「伸びる」個や集団作り

「とっとり学力・学習状況調査」による個や集団を伸ばすためのPDCAサイクルの構築

授業の質の向上

「全国学力・学習状況調査」による授業改善に向けたPDCAサイクルの構築

P **分析委員会**
 ・東、中、西部の市町村指導主事、県指導主事等でチームを編成し、調査結果を分析する
 ・学力を伸ばしている先生の実践を参観したり、聞き取ったりして、そのノウハウを収集し、報告書を作成する

Plan **分析説明会**
 ・東、中、西部で全実施校担当者対象に、結果の分析方法について研修会を開催し、自校で分析できるようにする
学校マネジメント研修
 ・調査結果の学校経営への活用法について管理職対象に研修会を開催する

P **課題の分析**
 ・結果から正答率の低い問題や平均よりも正答率が低い問題について分析し、授業改善の方策を立てる

Do **問題の分析**
 ・先生が実際に問題を解き、その問題に込められている授業改善のメッセージを読み取り、授業改善の方策を立てる

Check **自校採点（研修）**
 ・校内研修として、児童生徒の解答を採点し、誤答分析を授業改善につなげる

D **調査結果活用**
協力校
 東、西部に協力校を指定し、「伸びる」集団作りについて継続して支援する

活用モデル地域
 学力を伸ばしている学校や先生についての地方教育アドバイザーの支援のもと分析し、好事例として発信し、周知を図る

学校支援
 ・スーパーバイザー派遣
 ・若手教員を先進地（校）へ派遣

D **全県小学校訪問**
 ・県内全小学校の算数の授業を参観し助言を行う（1回以上）

単元到達度評価問題 B-PLAN
 ・毎月問題を配信
 ・授業改善のポイントについて各教育局が支援

学力向上研修会
 ・秋田県教育専門監の招聘
 ・調査問題作成者の招聘（教科調査官・元学力調査官）
 ・中学校教育研究団体との連携

研修パッケージ
 ・「今求められる学力」を付けるための授業づくりについて校内研修用動画を配信

県・市町村学力向上推進会議
 ・鳥取県における学力向上について市町村と課題を共有し、市町村と鳥取県が協働し、課題解決に向けて具体的な取組を検討・実行することで、全県一体となって学力向上を強力に推進する。

学力向上PT会議
 ・外部アドバイザー、町村長、有識者、市町村教育長代表、校長会代表等でプロジェクトチームを設置し、学力向上対策の方向性や取組の検証、効果的な取組にするための改善等について協議する

「伸びる」個や集団作りに向けた実践
 「伸ばした」先生の実践を学校・地域内で共有し実践

授業の質の向上に向けた実践
 「今求められる学力」を理解し、力をつける授業を実践